

本町の認知症対策について問う



質問者
南雲 まさ子 議員

本町の高齢者人口は、平成32年にピークを迎え、団塊の世代が後期高齢者に入る平成37年では、平成26年と比べると1.23倍になると推計され、それに伴い認知症の方の増加が予測されます。

松田町第6期高齢者福祉計画・介護保険事業計画も最終年度となりました。



認知症サポーター養成講座

- (1) 認知症サポーターの受講者を増やす方策についてのお考えは。
- (2) 徘徊高齢者を早期に発見できる地域のシステム作りと、早期発見のためのさらなる施策も必要と思われませんが、お考えは。
- (3) 認知症初期集中支援チームの構築後の充実についてのお考えは。

認知症進行抑止施策を展開

A



回答 (町長)

- (1) 認知症サポーター養

成講座を、今後18か所ある地域の茶の間すべてで開催する。また、高齢者がよく利用する商店や銀行等に従事する方、小中学生などへの出前講座の開催に向け調整していく。

(2) 徘徊に対してのシステムとして、足柄上地区徘徊高齢者SOSネットワーク事業等がある。徘徊時、「ご家族や地域の方々が早急に、連携連絡の核となる警察署や自治

体へ一報を入れることが大切なることから、認知症を正しく理解し見守っていただけるよう理解普及を図っていく。

(3) 認知症が進行しない早い段階で、認知症初期集中支援チームに相談して頂くことが大事で、チームの存在や業務の周知を図ること、認知症ケアパスの作成等、認知症に関連した事業内容の充実を図っていく。

松田小木づくり校舎の工期と災害時の機能について



質問者
田代 実 議員

松田小木づくり校舎建設の青写真となる校舎の規模や配置などが、校舎建設基本計画策定委員会で決定され、平成29年度はプロポーザル方式等により設計者と施工業者の企業体を選定し基本設計

に取り組むとのことですので、次の2点についてお伺いします。

(1) 木づくり校舎は、31年度に着手し年度末の3月に完成予定ですが、実質一年足らずの工期に不安を感じます。国の先導



かまどベンチの例
普段は「ベンチ」、災害時は「かまど」として使用

事業として全国の先進モデルとなる町を挙げたの大事業ですので、32年度までの二か年継続事業という選択肢もありますが、いかがでしょうか。

(2) 災害時の避難所としての役割を担うとのことですが、既存の学校施設避難所との機能の差別化、かまどベンチや防災トイレの設置についてのお考えは。

- (1) 現時点では、平成31年度に校庭へ新校舎建設を計画しているが、木づくり校舎のため木材調達や特別の事情により、工期の延伸が必要になるとも考えられる。工期を初め諸問題解決のために、校舎建設検討委員会に諮って調整していく。
- (2) 松田小屋内運動場は、避難所として指定されているが、階段があるため障がい者や高齢者には利用しづらいので、新たな体育館建設では考慮する必要がある。また、中庭などにかまどベンチや防災トイレ用の下水道直結マンホールの設置についても、前向きに検討していきたい。

建設検討委員会で前向きに調整していく

A



回答 (教育長)